アイラミド配合懸濁性点眼液

CTD 第 2 部 CTD の概要（サマリー）

2.7 臨床概要

2.7.5 参考文献

千寿製薬株式会社

2.7.5 参考文献

1)2014 年 4 月～2018 年 3 月における縮瞳薬及び緑内障治療剤：局所用の使用状況．株式会社 JMDC．

2)中島　正之．2. 眼圧下降法．In: 桑山　泰明、真野　富也、大橋　裕一、編者．東　郁郎、監修者．緑内障カンファレンス．東京．南江堂．1998; 169-74.

3)新家　真．点眼薬の吸収と動態（眼内移行、流出など）．In: 丸尾　敏夫、本田　孔士、臼井正彦、田野　保雄、編者．眼科診療プラクティス．11.眼科治療薬ガイド．東京．文光堂．1994; 387-92.

4)アイファガン®点眼液 0.1%（ブリモニジン酒石酸塩点眼液）添付文書：2018 年 3 月改訂（第 4 版）．

5)エイゾプト®懸濁性点眼液 1%（ブリンゾラミド懸濁性点眼液）添付文書：2019 年 4 月改訂（第 10 版）．

6)日本眼科アレルギー研究会小委員会（委員長：大野　重昭）．アレルギー性結膜疾患の新しい臨床評価基準と重症度分類．医薬ジャーナル．2001; 37: 1341-9.

7)Miyata K, Amano S, Sawa M, Nishida T. A novel grading method for superficial punctate keratopathy magnitude and its correlation with corneal epithelial permeability. Arch Ophthalmol.2003; 121: 1537-9.